

---

## 父の手紙 <伝説のブッチャー・ブルー>

アメメン

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

父の手紙へ伝説のブッチャー・ブルー >

### 【Zコード】

Z2928C

### 【作者名】 アメメン

### 【あらすじ】

引っ越しの大掃除をしていて、古い手紙を見つけた。27年前に亡くなつた父の思い出が蘇る。

その手紙を見つけたのは、引っ越しの大掃除をしていく時でした。獣医として一人前にやつていける自信がついたので、昔、父さんが使っていた診療所に戻つて来る事にしたのです。長い間使われていなかつたので、何もかも埃だらけでした。

天袋の奥を覗いた時です。古い段ボール箱が仕舞い込まれているのを見つけました。

おつかなびつくり中をのぞいてみると、モコッとしたホコリと一緒に、懐かしい父さんの匂いがしたのです。

中から出てきたのは、男物の衣類でした。

きちんと畳まれた白いシャツは、あの日に父さんが着ていた物に違ひ有りません。

私の記憶の始まりは、5才の夏の日、この家の前で、バイクに乗つた父さんを見送った事です。白いシャツを着た父さんの大きな背中が、ゆつくりと遠ざかつて行くのを見ていました。

父さんは、バイバイと無邪気に手を振る私を残して、青い空に溶け込んでいったのです。

そして、戻つて来ませんでした。

私に残されたのは、黒いリボンで飾られたモノクロの真面目くわついた顔をした男の人の写真だけでした。

あの時、父さんが振り向いていたら・・・何度そう思つたことでしょう。

私が獣医になつたのは、少しでも父さんに近づきたかったからなのかもしれません。

段ボール箱の中の、少しシミで汚れたズボンを手に取つた時でした。

ポケットに入つたままの封書を見つけました。

27年前、もし事故に遭わなかつたら、父さんはこの手紙をポストに入れていたのでしょうか・・・そう思つと悲しみが込み上げてきて、涙が溢れそうになりました。

でも、そこに書かれていた宛先を見た時、思わず吹き出してしまつたのです。

住所は所番地までキチンと書かれているのに、宛名の欄には『ブッチー・ブルーの飼い主様へ』と書かれています。裏を返すと、父さんの名前と、この家の住所と電話番号が丁寧に書いてあります。

父さんが、いつたいどんな内容の手紙を出すとしていたのか知りたくなりました。

人の手紙を見るのは良くない事だけれども、27年も前の事だし、差出人である父さんは亡くなっている訳だし、宛名の書き方も可笑しかつたので中を見る事にしました。

### ブッチー・ブルーの飼い主様へ

前略、愛犬ブッチー・ブルー君の行方について、ご心配されている事と思います。

私は、北海道で獣医をしている者です。先年、ブッチーの父親である野良犬のブルーを引き取り、一緒に暮らしています。

ブッチー・ブルーのような小さな犬が、どうやつて海を超えて北海道までやつて来たのかは定かではありませんが、5日前に我が家に辿り着きました。一匹の犬は、3年ぶりに親子の対面を果たし、昼夜も夜も寄り添う様にしております。

メダルの裏側に彫られた住所を頼りに、この手紙を書きました。今後の事につきましては、追々相談する事といたしまして、取り急ぎブッチー君の無事をお知らせ致します。

そして手紙には、一枚の写真が添えられていました。

片方の目の周りだけが黒く、まるで殴られたボクサーのようにキヨトンとした表情をしたブッチャー・ブルーの写真が一枚。もう一枚は、ブッチャーが、青い目の黒犬に甘えるように寄り添っている写真でした。

両方とも出始めの頃のカラー写真だったので、色は褪せてしまっていたけれど、私の記憶の中のページは、パラパラと音を立ててめぐれていきました。私は、一匹の犬の事を鮮明に思い出したのです。ブルーは、父さんの後を追う様にして亡くなりましたが、ブッチャー・ブルーの方は、私が高校を卒業する迄、この家で暮らしていました。近所の農場には、今もブッチャーの血を引く犬達が暮らしています。

封筒に手紙を戻そうとした時でした。ブッチャーのメダルが、ポロリと転がり出て来たのです。

その瞬間でした。

記憶の中では後ろ姿でしかなかつた父さんが、振り向き、私に向かって笑いかけた気がしたのです。

私は、父さんの顔をはつきりと思い出していました。笑った時に右の頬だけにエクボが出来る父さんの顔を・・・。

その日の夕方、私は、父さんが使っていた古いデスクに向かつて座っていました。

昔、子供だった頃、ブッチャー・ブルーという名の子犬を飼っていた貴方へ・・・という書き出しの手紙を書く為に。

おわり

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2928c/>

父の手紙 <伝説のブッチャー・ブルー>

2010年10月9日21時46分発行